

心エコー図検査で知っておきたい 心疾患治療デバイス —「予期せぬ見え方」を正しく読み解く

foreword

近年、構造的心疾患（SHD）に対してカテーテルを用いた低侵襲的治療法が発展・普及し、心エコー図検査時に心疾患治療デバイスに遭遇するケースが増えています。しかし、見慣れないデバイスの構造物などが描出された際、その背景を正しく理解していなければ、検査者としての判断に迷いが生じ、検査の遅延や臨床判断の誤りにつながりかねません。

そこで、本特集では心エコー図検査で遭遇することの多い心疾患治療デバイスにフォーカスし、その概要や、心エコー図検査時に注意すべき見え方、正しい解釈・評価のポイントについてご解説いただきます。

（編集部）

-
1. 総論—心疾患介入治療の広がりとは心エコー図検査の役割
 2. 各論—主要デバイスにおける画像評価の勘所
 - 1) 経皮的動脈弁置換術（TAVI）
 - 2) 経皮的僧帽弁接合不全修復術
 - 3) 経皮的左心房内隔欠損閉鎖術／卵円孔閉鎖術
 - 4) 経皮的左心耳閉鎖術
 - 5) ペースメーカ植込み術
-